

俳句

「窪川句会」

百年の戸が軋りいる春の風
 大小の足あと残る雪野かな
 岩陰に潜む稚鯉や厚氷
 水仙の日射し分け合ふ狭庭かな
 お手玉の赤き絞りや針供養
 焼詣に少年話のはづみけり

田中 一柿
 戸田美智子
 野坂 安意
 渡辺 小梅
 市川 令子
 池 和子

短歌

「窪川短歌教室」

日を追って紅のさしくる錦木の
 しみしみと凍てる真冬の闇に佇ち
 この歳でようやく知ること気付くこと
 この土佐まで灰が降り来て霞む空
 鯨差、裁ち板、紬台、お針箱、
 指貫胼胝の姑を偲びぬ
 年老けて苦しき事の多かりき
 避けて通れぬたつきぞきびし

市川 隆子
 市川 浩子
 岡村香代子
 島岡 紀美
 宮崎美紀代
 伊勢脇利勝